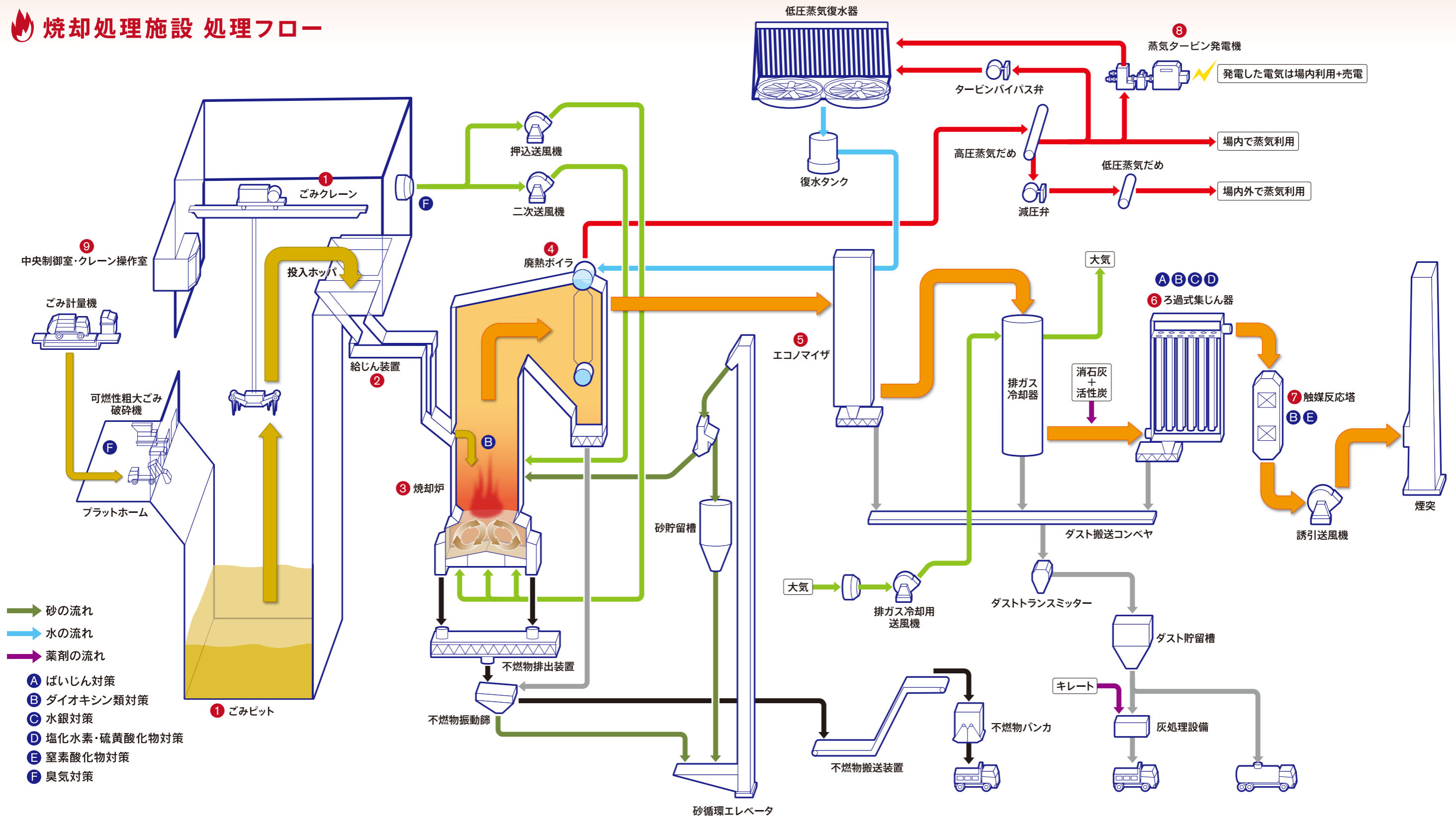


焼却処理施設 処理フロー



ごみの流れ

収集したごみは計量後、ごみピットに投入します。ピットからごみクレーンでごみ投入ホッパに送り、給じん装置によって一定量づつ焼却炉に供給していきます。焼却炉内では、熱せられた砂が流動攪拌しており、ごみを完全燃焼することができます。

排ガスの流れ

燃焼によって発生した排ガスは、廃熱ボイラで熱回収し、さらに排ガス冷却器で冷却後、消石灰を吹き込み塩化水素と反応させます。同時に活性炭を吹き込みダイオキシン類を吸着させます。ろ過式集じん器ではばいじんや消石灰反応物、活性炭を捕集し、さらに触媒反応塔でアンモニアと窒素化合物を反応させ、窒素と水に分解します。煙突からは清浄なガスを大気へ放出しています。

空気の流れ

焼却炉に吹き込む空気は、ごみの燃焼と炉内の砂の攪拌に利用しています。ごみピット内の空気を用いることで場外に臭気が漏れるのを防止しています。

蒸気の流れ

ごみを焼却した時に発生する高温の燃焼ガスはボイラで熱回収し、その熱で蒸気を発生させています。この蒸気はタービンを回転させ発電したり、施設内および周辺施設の熱源として有効利用しています。

灰の流れ

排ガス処理の過程で出た灰は、ダスト貯留槽に溜めて、その後場外に搬出し、路盤材等として再利用しています。また、一部についてはキレート処理をして最終処分場に埋め立てます。

不燃物の流れ

ごみの中に含まれている石・ガラス・金属等の不燃物は、焼却炉下部より砂と一緒に抜き出し、振動ふるいで分離、回収します。不燃物は大きさにより分級し、さらに鉄類と不燃物に分け、それぞれのバンカに貯留後搬出し、再資源化を図っています。一方、砂は再び焼却炉に戻しています。